



～リアル4刀流～ 防火啓発、社会福祉、 地域防災力向上、 女性の社会進出



栃木県 鹿沼市消防本部

事例類型 IV 他団体との連携

取組期間 令和2年4月から

背景

「家庭から火事を出さない」「火災から市民を守りたい」
これは鹿沼市婦人防火クラブ連合会(以下、「婦人防火クラブ」という。)として定めた大きな目標である。そして、この目標を達成するためには、住宅用火災警報器の設置率を向上させることが、1番の近道ではないかと考えた。では、なぜ平成18年度から義務化されている住宅用火災警報器の設置率がいまだに上がらないのだろうか。そこには、「購入費用」と「設置の労力」という二つの壁が存在するからである。婦人防火クラブと当本部では、この壁をどうすれば乗り越えられるかを考えた。

内容

1人暮らし高齢者宅を中心とした、住宅用火災警報器の無償提供及び婦人防火クラブ員と消防職員共同による設置代行を実施した。
まず初めに、婦人防火クラブ員の地域ネットワークを最大限活用し、自分1人では住宅用火災警報器の購入、設置が難しいと思われる住民のリストアップを行った。
続いて、住宅用火災警報器を購入する為の費用を確保しなければならぬ。婦人防火クラブでは独自事業として、「ミニまとい」を手作りし、地域防災の象徴、防火啓発の一環として配布販売を行い、利益を生み出す活動をしている。そこで生まれた資金を活用し、住宅用火災警報器を購入した。



続いて設置であるが、婦人防火クラブ員と予防課職員の共同で行った。地元の婦人防火クラブ員がいることにより、当事者は安心して設置を受け入れることができ、住宅用火災警報器の知識を豊富に持っている予防課職員が設置することにより適切な設置が行える。リストアップした住宅の中で、消防車両の到着が遅くなることが想定される、山間部の住宅から設置活動を実施した。



成果

令和3年度は5件の高齢者宅に住宅用火災警報器を設置することができた。「たったの5件?」と思われるかもしれないが、何も行動を起こさなければ設置されることのなかった5件である。今後この活動を続けることでどこまで「火災から市民を守りたい」という目標に近づけるかは分からないが、少しずつでも住宅用火災警報器の設置率が向上していき、さらにはこの活動を通じて、地域の関わりが増え、防火意識、自助共助の意識が高まることで地域の防災力が向上していくと私たちは信じている。



特記事項

内容で記載した通り、住宅用火災警報器は全て婦人防火クラブが毎年、防火啓発事業の一環でミニまといを手作りし、配布販売を行い、そこで得た利益から購入した。その事務及び設置の協力を消防本部予防課で行っている。
出来上がったミニまといを一軒一軒婦人防火クラブ員が直接手渡しで行うことにより、顔の見える関係ができ、地域防災力向上において重要事項に掲げられる共助力向上にも一役買っている。ミニまといを通じて行う防火啓発、一人暮らし高齢者を火災から守る社会福祉、ミニまといを通じて地域との繋がりに生まれる地域防災力向上、これらを自分たちの活動で得た利益だけで行っているボランティア団体は、日本全国探しても見当たらない。
そして、この団体は事務局以外女性だけで運営している。国の方針でも女性の社会進出がこれからも促進されていくが、女性活躍の場を提供し継続して活動を行うのは難しくなっている時代である。婦人防火クラブと消防署が連携してこの事業を継続し、防火啓発及び社会貢献の一端をこれからも担っていく。
婦人防火クラブ連合会による、「防火啓発」、「社会福祉」、「地域防災力の向上」、「女性の社会進出」というリアル4刀流が、今後も地域の安全のため継続できるよう、当本部は支援を続けていく。

